

社会福祉法人よるべ会

令和4年度事業報告書

令和5年6月23日

【社会福祉法人よるべ会】 令和4年度 職務執行状況報告書

〔1〕初めに

3年間を超えて続くコロナ禍は第8波と言われる感染拡大となり、法人内においても施設やグループホームで感染が生じ、気の抜けない1年であった。更に国際社会における不安や混乱が重なったり、急激な物価高騰等、法人運営面でも厳しい状況が続いた。法人内施設・事業所では◎養鶏事業の7月終了、そして9月から半年余の鶏舎解体・整理作業を経て本年3月末に借地返還、◎アンテナショップ「ぽいんと・1」の本年2月末閉店、◎ISO国際品質基準の取組から社会福祉法改正に伴って生まれた「福祉サービス第三者評価事業」への転換等、何れの取り組みも法人設立や事業展開につながって長年培ってきた経過があり、大きな変化の年となった。

法人内においても、これまで約束事としてきた「理事75歳定年」について、2017年の社会福祉法改正による「理事の選任・解任は評議員会の決議による」とされた事との整合性を合わせ、再検討・確認のため「課題検討委員会」の設置が令和4年6月理事会及び評議員会で承認された。8月29日開催された同委員会での検討結果が10月理事会及び評議員会で報告され、これからの法人としての基本理念として確認された。

〈以下、主な活動計画に沿って〉

①権利擁護

※施設・事業所各々の場で虐待防止委員会、そして研修の定期実施を行った。

(オンラインによる動画視聴研修により、難しかった非常勤職員の参加につながった。)

※法人内全体職員研修会の実施。令和4年9月17日

テーマ「保護者からみての権利擁護と子の成長過程」

②業務の検証と改善

※パソコンの有効活用を図るため、職員アンケート調査や必要台数の確認等を実施。効率化・省力化を図った。

※「よるべ沼代」利用者の夜間支援強化の為、AIカメラによる見守り支援のロボットICTの導入を行った。

③人材確保・育成

※オンラインによる動画視聴研修(Eラーニング)を取り入れ、参加が難しかった非常勤職員の参加に繋がり、職員全体の共有・育成が広がった。

※人材確保につなぐ紹介動画の作成及び「事業所説明・見学会」(9月12日1名・2月9日3名・2月15日2名・2月24日4名参加)を行った。

※「東南アジア文化友好協会」からの協力要請を受け「外国人技能実習生」の受

け入れについて調査・検討を重ね、人材確保策の一つとして受け入れの準備を行った。

※新任職員研修に向けて、ハンドブック「よるべ会で働くあなたへ」を作成、全職員に配布。

④地域社会との連携

※コロナ禍で諸行事が中止となる中、各施設・事業所の状況に応じた配慮と工夫で行い、少しずつだが前進を図った。

⑤職員労務管理の改善

※慶弔規程等の見直し・整理を行い、法人内共有を図った。

※法改正に合わせ「育児・介護休業規程」の改正を行った。

※安心して働く環境づくりとして、職員私傷病補償のための「病気補償保険」加入や「積立年休制度」の検討・導入を図った。

○前年度より継続の「よるべ沼代隣地購入計画」について

法人所有地と購入計画地の間の国有地（畦畔）払い下げ手続きが令和4年12月までかかり、年明け後で、県・市農業委員会の手続きに入り1月末終了、そして2月地目変更手続きとなった。2月13日地主野口氏と正式売買契約を行い、4月20日司法書士立会いの下、契約に基づいて支払い完了、法人所有地となった。

令和5年度も厳しい経営環境が続くと思われるが「よるべ会」は利用者への良質なサービス提供を第一義に、一人ひとりの豊かな日々に繋がる利用者支援活動を担い続けていかねばならない。

その為にも、経営基盤の安定、業務の向上、人材確保・育成、地域社会とのつながりに一層の努力を重ねてゆく。

〔2〕事業運営（令和5年3月31日現在）

【事業運営】（令和5年3月31日現在）								
事業所名	よるべ沼代 （障害者支援施設）		コスタ・二宮 （障害福祉サービス事業所）		梅香園 （障害福祉サービス事業所）		わらべの杜 （福祉型障害児入所施設）	
実施事業	施設入所支援	定員40名	就労継続支援B型	定員20名	就労継続支援B型	定員18名	施設入所支援	定員40名
	生活介護	定員40名	生活介護	定員20名	生活介護	定員22名	短期入所	定員4名
	短期入所	定員4名					相談支援事業	
	相談支援事業							
事業所名	障害者支援センターぽけっと （就業・生活支援センター）		かめりあ・ボラリスホーム 共同生活支援事業（計8棟）		あずさの家 共同生活支援事業（計3棟）		どーむ （児童発達支援事業所）	
実施事業	就業・生活支援センター	登録者約540名	かめりあホーム	定員 33名	あずさの家	定員 7名	児童発達支援事業	定員10名
	地域就労援助センター		ボラリスホーム	定員 13名	ポプラの家	定員 7名		
					わたくも	定員 7名		

〔３〕 理事会・評議員会開催状況

＊監事監査 令和４年６月１日（安西監事・清水監事）

＊理事会

開催日	議案	出席者
6月9日	第１号議案 令和３年度事業報告(案)	理事７名
	第２号議案 令和３年度計算書類及び財産目録（案）	監事１名
	第３号議案 定時評議員会開催について	顧問１名
10月20日	第1号議案 令和4年度資金収支第1次補正予算(案)	理事６名
	第2号議案 諸規程の改定(案)	監事１名
	第3号議案 令和4年度第2回評議員会開催について	顧問１名
3月9日	第1号議案 令和4年度資金収支第2次補正予算(案)	理事７名
	第2号議案 令和5年度事業計画(案)	監事１名
	第3号議案 令和5年度当初予算(案)	
	第4号議案 コスタ二宮管理者の任免について	
	第5号議案 諸規程の改定(案)	
	第6号議案 令和4年度第3回評議員開催について	

＊評議員会

開催日	議案	出席者
6月24日	第１号議案 令和３年度計算書類及び財産目録（案）	評議員７名
		監事 ２名
10月28日	第１号議案 令和４年度資金収支第２次補正予算（案）	評議員７名
		監事 ２名
3月17日	第１号議案 令和４年度資金収支第２次補正予算（案）	評議員６名
	第２号議案 令和５年度事業計画（案）	監事 １名
	第３号議案 令和５年度当初予算（案）	

※課題検討委員会

令和４年８月２９日 午後３時００分～午後４時００分 よるべ沼代にて

出席者 座長：松本評議員、三宮評議員、清水監事、高橋（文）理事、秋澤理事

〔４〕 契約・入札処理及び固定資産について

＊コスタ二宮漏水修理工事 ㈱オフィスコジマ 2, 416, 610円

＊梅香園トイレ改修工事 ㈱松浦建設 2, 816, 000円

〔５〕法人全体職員状況

【法人職員状況】（令和5年3月31日現在）																
職種	よるべ沼代		コスタ・二宮		梅香園		わらべの杜		ぽけっと		かめりあ・ボラリス		あずさの家		どーむ	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1		1		1		1		1		1		1（兼）		1（兼）	
サビ児管	1（兼）		1（兼）		1		1				1		1（兼）		1	
医師																
看護師	1		1（兼）		1（兼）											
養士																
生活支援員	14	5	2	5							4		4			
支援員		3	4	4	10	7			5	1					1	2
保育士							5	4								2
児童指導員							9	14								
相談支援専門	3	1					1（兼）									
世話人											21		13			
運転手介助員					3		1	1								
事務員	4				1											
その他					1											
小計	23	9	7	9	13	11	17	19	6	1	6	21	4	13	2	4
	32		16		24		36		7		27		17		6	
合計	78	87	165													

〔６〕主な会議等

会議名	回数	月日
全体職員会議	5回	7/9、9/17、11/5、2/18、3/11
責任者会	29回	4/12・26、5/10・31、6/14・28、7/12・26、8/9・30、9/13・27
		10/11・12・25、11/8・18・29、12/6・13・27、1/10・16・20、2/14・28、3/7・22・28
運営会議	12回	4/12、5/10、6/14、7/12、8/9、9/13、10/11、11/8、12/13、1/10、2/14、3/7
品質委員会	12回	4/26、5/31、6/28、7/26、8/30、9/27、10/25、11/29、12/27、1/31、2/28、3/28
労務管理委員会	7回	9/21、10/19、11/22、12/7、1/13、2/7、3/17
新任職員研修	1回	11/9
県監査		11/1わらべの杜
県実地指導		11/1わらべの杜・コスタ二宮 2/17あずさの家

〔７〕労働安全衛生

＊職員健康診断を実施（7月1・9日）

〔８〕広報活動

＊かわら版 2回／年 夏号8月発行 冬号1月発行
 ＊ぽけっと通信 3回／年
 ＊ホームページ 順次更新

〔9〕法人行事・研修等

令和4年度 上半期行事・研修報告		
月	行事・家族会他	理事会・研修会他
4	01(金) 辞令交付	12(火) 責任者会・運営会議
	02(土) よるべ会保護者会役員会	26(火) 責任者会・品質委員会
	03(日) 沼代地区祭り	
	16(土) よるべ会保護者会総会（書面決議）	
	19(火) みのり会総会	
	27(水) 健康診断（梅香園）	
5	28(土) みんなのつどい（中止）	10(火) 責任者会・運営会議
		31(火) 責任者会・品質委員会
6	03(金) ハイキング（梅香園）	1(水) よるべ会監事監査
	() 歴史そば会（梅香園）（中止）	09(木) よるべ会理事会
		14(火) 責任者会・運営会議
		24(金) よるべ会評議員会
		28(火) 責任者会・品質委員会
7	13(水) 健康診断（コスタ・わらべ）	09(土) 全体職員会議
	20(水) 健康診断（よるべ沼代）	12(火) 責任者会・運営会議
	23(土) 梅香園納涼大会（無観客にて開催）	26(火) 責任者会・品質委員会
	30(土) よるべ夏祭り（中止）各事業所にて開催	
8	11(木)～15(月) 夏休み	09(火) 責任者会・運営会議
	22(月)～23(火) わらべの杜一泊旅行（中止）	30(火) 責任者会・品質委員会
9	02(金) 梅香園旅行	13(火) 責任者会・運営会議
	() 健民祭（よるべ沼代・わらべの杜）（中止）	17(土) 法人全体職員研修会
	09(金) よるべ沼代日帰り旅行	27(火) 責任者会・品質委員会
	17(土) よるべ会保護者会（中止）	
	19(月) 敬老会（よるべ沼代）（中止）	
	24(土) 歯科検診（よるべ沼代）（中止）	
10	16(日) よるべふれあい祭り（中止）	11(火) 責任者会・運営会議
	22(土) 秋の感謝祭（梅香園）（中止）	20(木) よるべ会理事会
	28(金) よるべ沼代日帰り旅行	25(火) 責任者会・品質委員会
		28(金) よるべ会評議員
11	11(金) 予防接種（コスタ二宮）	05(土) 全体職員会議
	12(土) 予防接種（わらべの杜）	08(火) 責任者会・運営会議
	18(金) 予防接種（よるべ沼代）	29(火) 責任者会・品質委員会
	26(土) 予防接種（わらべの杜）	
	25(金) よるべ沼代日帰り旅行	
12	03(土) 県西地区文化事業	13(火) 責任者会・運営会議
	10(土) よるべ会保護者会・よるべ沼代清掃（中止）	27(火) 責任者会・品質委員会
	16(金) よるべ沼代クリスマス会	
	17(土) コスタ二宮クリスマス会	
	17(土) わらべの杜クリスマス会	
	28(水) よるべ沼代餅つき	
	29(木)～1/3(火) 冬休み	
1	4(水) 仕事始め	10(火) 責任者会・運営会議
	07(土) よるべ会新年会・大山阿夫利神社参拝	31(火) 責任者会・品質委員会
	10(火) どんど焼き（わらべの杜）	
	14(土) どんど焼き（よるべ沼代）	
2	18(土) 内科検診（よるべ沼代）	14(火) 責任者会・運営会議
	18(土) よるべ会保護者会役員会	18(土) 全体職員会議
	26(日) 消防団合同訓練（よるべ沼代・わらべの杜）	28(火) 責任者会・品質委員会
3		09(木) よるべ会理事会
		11(土) 全体職員会議
		17(金) よるべ会評議員会
1. サービス管理責任者研修・更新基礎研修7名参加（梅香園3名・ぽけっと1名・よるべ沼代1名・コスタ二宮1名・かめりあ1名）		
2. 児童発達支援管理者研修・更新研修1名参加（どーむ1名）		
3. 相談支援従事者研修・上半期研修無、下半期現任研修（よるべ沼代1名・コスタ二宮1名・地域生活支援課1名）		
4. 虐待防止・権利擁護研修		
5. 強度行動障害支援者養成研修（わらべの杜1名・梅香園1名）		

【よるべ沼代】 令和4年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

よるべ会の基本方針に基づき、質の高いサービス提供ができる様、計画的に目標設定を行い、様々なニーズに対応する。「施設入所支援」「生活介護」「短期入所」「日中一時」事業をさらに充実させ、入所利用者の高齢化・重度化への対応、必要な支援を進める。また、他の事業所と連携を深め、施設生活の質の向上に向けた環境づくりを積極的・計画的に実施する。

〔２〕 取り組みと状況報告

年度内に入所定員 40 名を満たしたが、長期入院等もあり減収となった。感染症の状況を見ながら長期休暇の帰宅や、面会の制限を緩和。感染症予防として毎日の検温、体調管理、消毒の徹底等の対応を継続したが、1 月 8 日にコロナ感染者が判明。利用者 24 名、職員 6 名が感染した。他部署からの応援、県、市からの指導、助言を受け対応、一ヶ月後に収束を迎えることが出来た。年間を通して外出・外食の機会や、行事やクラブ活動等の楽しみづくりを可能な形で実施した。短期入所については、ニーズや感染の状況を見ながら受入れを実施。養鶏事業からの撤退に伴い、養鶏場の解体作業を 9 月に開始し、3 月末に撤去がほぼ完了した。

〔３〕次年度に向けて

高齢者や行動障害のある方について、本人の状況に合った生活環境がどこまで提供できているのかを十分に検討し、本人にとってより良い環境に向けて、他施設や介護保険制度への移行を含め、関係機関との連携をはかりながら進める。感染症予防、虐待防止、身体拘束の適正化への取り組みの強化、検討を行う。また、入所の欠員が続く状況を踏まえ、関係機関との連携の強化、短期入所、通所利用等の受入れを進め運営の安定を図りたい。日中活動について、楽しみとなる活動を目指し、改善を進める。

〔4〕利用者状況

■年齢区分		最小年齢：18 歳			最高齢：74 歳			(令和5年3月31日 現在)	
	～20 歳	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	60 歳～	70 歳～	平均年齢	計
男	1	3	1	2	8	6	3	51.7	24
女	0	2	1	2	5	5	1	51.6	16
計	1	5	2	4	13	11	4	51.7	40

■障害支援区分 (令和5年3月31日 現在)

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分	計
男	0	0	0	0	4	10	10	5.2	24
女	0	0	0	0	3	8	5	5.1	16
計	0	0	0	0	7	18	15	5.2	40

■施設入所支援（定員 40 名） 開所日数及び利用者数・利用日数 （令和 5 年 3 月 31 日 現在）

施設入所支援		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	23	23	23	23	23	23	23	24	24	24	24	24	281
延日数		690	713	690	713	713	690	713	695	743	707	645	734	8446
実人数	女	16	16	16	15	15	15	15	16	16	16	16	16	188
延日数		475	465	450	465	465	450	451	452	465	459	439	491	5527

■生活介護（定員 40 名） 開所日数及び利用者数・利用日数 （令和 5 年 3 月 31 日 現在）

生活介護		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数		22	23	22	23	22	22	23	22	22	22	20	23	266
実人数	男	22	22	23	23	23	23	23	24	24	24	24	24	279
延日数		454	497	495	522	500	498	518	509	516	487	448	541	5985
実人数	女	16	16	16	15	15	15	15	16	16	16	16	16	188
延日数		339	354	340	335	320	315	323	320	317	311	300	359	3933

■令和 4 年度 新規入所者年齢

	～20 歳	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	計
男	0	0	0	0	1	1
女	0	0	0	1	1	2

■令和 4 年度 退所者状況

	グループホーム	自宅	介護施設	入院	その他	計
男	0	0	0	0	0	0
女	0	0	1	0	1	2

■工賃実績（前年対比） 4 月～3 月までの一人当たりの月平均金額

	令和 3 年度実績	令和 4 年度実績	備 考
生活介護（生産型）	¥3,056	¥537	養鶏班 10 名
【収支】収入¥555,874／支出¥1,743,263（内工賃¥64,500）／利益 △¥1,075,191			

〔5〕短期入所・日中一時事業

■短期利用者状況（定員 4 名） （令和 5 年 3 月 31 日 現在）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
実人数	3	4	2	3	3	3	8	6	6	2	6	8	54
延べ人数	4	7	3	6	7	8	12	13	8	2	9	23	102
延べ日数	14	25	28	30	20	20	57	45	24	7	27	86	387

■日中一時利用状況 （令和 5 年 3 月 31 日 現在）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	17	25
延べ時間数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	17	25

〔6〕令和4年度まとめ※事業所の課題および実施状況（評価 ○・△・×）

具 体 的 活 動	実施者	到 達 点	実 施 状 況	評価
【権利擁護の確立】 ・虐待防止委員会を作り、ヒヤリハットやKW等からの事案について検討、職員間で情報共有を行う。研修や自己チェックを実施し、虐待や権利擁護に対する意識の向上に繋げる。	課長	虐待防止委員会が出来、虐待や権利擁護に対する意識の向上に繋がった。(改善案が実施できた。)	虐待防止委員会を設置、運用を始めたが、毎月の開催には至らなかった。自己チェックや会議等を通してヒヤリハットや人権に関しての意識は高まったが、改善案の実施まで至らなかった。	△
【人材育成】 知識・技術の向上を図る為、グループに分かれ個別課題（1G：認知について 2G：強度行動障害について 3G：リスク管理について 4G：機能維持について）に取り組む。外部研修などへの積極的に参加する。	課長 各主任	研修や、グループ検討会を通して得た事から、新たな取組みに繋がり、活用する事が出来た。	グループの個別課題を通じて、利用者に合った支援に繋げる事が出来た。グループによって課題取組みの進みに差が出てしまった。外部研修に関しては、映像研修等への参加を進める事が出来た。	△
【業務の検証と改善】 ・必要な業務と簡素化できる業務の見極めを行う。各日中活動班、寮で改善案を出し会議の場で活動の報告、状況の共有を進める。 ・職場での働きやすい環境づくり、環境美化を進める	各主任	・業務内容の見極めが出来、日中活動班や寮の改善に繋がった。 ・職場の整理整頓が習慣化。職場での働きやすい環境づくり、環境美化への意識が高まった	寮会議・サービス会議を通して、業務の確認と見直し、日々の流れ等の再確認を行ない、現在の状況に合わせ改善を行った。 環境美化等を継続して進めているが、寮内や会議室などの整理整頓に関して習慣化には至らなかった。	○
【地域社会との連携】地域社会や関係機関との連携を図り、交流を深める。地域やボランティアとの交流の工夫と検討を行う。地域の会議への積極的な参加	各主任	地域や関係機関と交流の工夫や検討ができ、情報共有ができた。	感染予防対策を検討し、クラブ活動を実施したが、予防対策の周知、実施が徹底できない場面もあった。予防対策の伝え方やクラブの実施方法を今後も検討する必要がある。	△

〔 7 〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
10/17 (月)	【夜間訓練】 避難・初期消火・通報訓練・ 連絡網訓練	夜勤職員 全利用者	地震を想定しての訓練を実施したが、各利用者の特性を考慮した避難方法について今後も検討が必要。
2/26 (日)	【地域消防団との総合訓練】 休日体制での避難・消火・通報訓練	出勤職員 全利用者	火災発生への対応を考慮し、避難経路や避難場所の変更も今後検討。

〔 8 〕 リスクマネジメント（事故報告）

種 類	件 数	内 容 等
転倒/転落	34	廊下等移動時 (16) /居室 (7) /食堂 (4) /トラブル (2) /その他 (5)
ケガ	2	階段から転落/作業中
服薬	5	落薬 (2)、錠数間違え、飲ませ忘れ
利用者トラブル	21	ボディータッチ/他者の物を無断で持ち去る/他者の部屋等への侵入
車両	2	車両事故による物損
その他	24	施設外への飛出し (4) /異食/コロナ感染/連絡ミス 他

■＜重大事故＞ ※県・市町へ報告 1 件

日付	種類	内容	対処	対応・対策
1/8	感染症	新型コロナウイルス感染 (利用者 24 名 職員 6 名)	寮内 療養	県、市からの指示、助言。感染症マニュアルに沿って感染拡大防止。(2/7 収束)

〔 9 〕 苦情解決 ■ 苦情件数 0 件

【レクリエーション 風景】

※ 写真は割愛しています。

夏祭り（盆踊り）

クリスマス会

【地域生活支援課】令和4年度事業報告書

〔1〕運営目標

今年度も、利用者のライフステージに沿いながら、若い世代の利用者への今後に向けた目標を念頭とした支援や中高齢世代の利用者の方々への医療、介護、などの社会資源との繋がりを意識した支援を実施する。まだまだコロナ渦が続くことが予想されるため、ホームの生活において感染の防止、拡大の防止に努め、必要な対策を講じ安心、安全な生活支援の提供を行う。

事業所名	利用定員	住居数	名称
かめりあホーム	33名(うち1名はサテライト住居)	6か所	ナスカの家、一色ハウス、湘南ビレッジ、かめりあホームⅠ、かめりあホームⅡ、ラパ・ゆりが丘、
ポラリスホーム	13名	2か所	ポラリスホーム、エピナールホーム

〔2〕取り組みと状況報告

コロナウィルスによる制約のある生活を送るようになって3年経過したが、まだまだ感染に対する対処を優先しなければならない状況が続く中、利用者の健康維持、感染の予防と感染時の拡大防止などを主眼において日々の支援を行ってきた。

予防の基本となるワクチン接種については2年目に入り要領を得たことで、比較的スムーズに各自に接種機会を提供することができた。予防に向けて、日々の検温実施や衛生を保つための消毒の実施などをこまめに行い、ホームでの支援に根付かせながら行ってきた。感染力の高いウィルスが主流になっていたため、通勤、通所など社会との接点が多いグループホームの利用者の生活上、感染は避けられないこととして想定し、BCPの作成にも着手した。実際に7月、12月、1月と3回にわたって合計5か所のグループホーム内で、10名の利用者がコロナウィルスに感染してしまう状況が起きた。作成したBCPに沿いながら、その時はホーム自体を閉鎖して、入居者同士の接触を控えていただきつつ、必要な食事提供や健康観察、拡大を把握するための抗原検査の実施などを中心に常勤職員のみが対応に当たり、その都度乗り越えてきた。BCPについても、実際の取り組みを反映させながら、状況に対処できるように行ってきた。

今年度、利用者のライフステージに沿った支援の取り組みとして、2名の利用者に成年後見制度の利用申請を行い、2名とも保佐人が無事につくこととなり、それぞれの支援に活かすことができるようになった。介護保険や保健サービスとの連携を利用者の状態に応じて結びつけていくことも引き続き実施してきた。一方新たに企業就労に繋がった方や福祉サービス利用ができなくなってしまった方、就労の継続が危ぶまれる心境となっている方など、新しい課題に直面した利用者も複数いらっしゃり、その方の暮らしを支える立場から、その方がどのような生活を送りたいと思っているのか、その方が何に困

難さを覚えているのか、といったことを利用者との対話を心がけながら理解するようにし、関係する機関と連携を図れるように取り組んできた。こうした支援の関りの中で、暮らしを支える事業所としてはやはりご本人に一番近い立場で関わる必要性を改めて認識することができた。

〔3〕次年度に向けて

幅広い世代の利用者一人ひとりのニーズをきちんと捉えた個別支援計画を立案する。その支援を提供していくために、職員一人ひとりが正しい支援スキルを備え発揮できるように、学びを怠らず教育の機会を持つ工夫をしていく。

正確性や効率性を念頭に置いた業務の在り方を意識して、改善への視点を忘れずに、スムーズな業務運営が出来る集団を目指す。

〔4〕利用者状況

■障害支援区分（令和5年3月31日現在）									
	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	
男	1	0	21	7	3	1	0	2.5	
女	0	0	3	5	4	0	0	3.1	
計	1	0	24	12	7	1	0	2.8	

■年齢区分（令和5年3月31日現在）									
	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	平均年齢	計
男	1	9	2	8	5	6	2	45歳	33
女	0	2	0	1	1	2	6	60歳	12
計	1	11	2	9	6	8	8	52歳	45

■在所年数（令和5年3月31日現在）									
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	計
男	0	3	4	7	7	3	5	4	33
女	0	0	1	2	2	1	3	3	12
計	0	3	5	9	9	4	8	7	45

■開所日数および利用者数・利用日数（令和5年3月31日現在）														
【かめりあホーム】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	22	21	21	21	21	22	22	22	22	22	22	22	260
延べ利用日数		621	625	593	614	607	643	677	654	676	656	612	676	7654
実人数	女	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132
延べ利用日数		329	330	330	341	329	330	332	330	336	336	308	341	3972
【ボラリスホーム】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	9	9	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	124
延べ利用日数		267	274	300	310	301	297	341	324	334	337	303	338	3726
実人数	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
延べ利用日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365

■令和4年度 新規入所者年齢（令和5年3月31日）						
	10～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	計
男	1	0	0	1	2	4
女	0	0	0	0	0	0

■令和4年度 退所者状況（令和5年3月31日）			
	自宅	介護施設	他
男	0	1	0
女	0	0	0

〔5〕 短期入所・日中一時事業 なし

〔6〕 相談支援 なし

〔7〕 令和4年度 まとめ ※各事業所の課題および実施状況

（評価 ○・△・×）

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁護の確立	【権利擁護の確立】 権利擁護の基礎研修、学習を通して必要な知識やスキル、権利擁護に対する意識を高める。 ・学習の場、研修への積極的な参加等の機会を作る。 ・自己チェック表を活用。自己評価、課題の抽出、改善を図る。	課長 主任	8か所のGHで伝達研修、共有研修が実施できたかどうか。	スペシャルラーニングの動画を各自で視聴する取り組みを課内で推奨した。また、実際に起こった施設内での虐待事案やその疑いのある事例についての報告書を常勤職員で一定期間目を通して、GH内でも起こりうる可能性について、各自の視点を共有する取り組みをした。 GH全体の集合研修や伝達研修までは行えなかった。	△
人材の確保育成	【人材の確保、育成】 利用者の自己決定を支援するために、意思決定支援を課として学び、その実践をすすめる。	課長 主任	意思決定支援について、年間を通して、課職員が複数学ぶ機会を持つ。 研修の参加、その伝達を進める。	意思決定支援ガイドライン研修に1名が参加。その内容を課内で共有する取り組みを実施中。意思決定支援そのものを理解するために、まだ学びや学習が必要、と感じている。	△

業務の検証と改善	【業務の検証と改善】 ・業務状況を確認。必要な業務と簡素化できる業務の見極めを行う。 ・現場からの提案の吸い上げをし、業務に反映をしていく。	職員	ウィークリー業務、マンスリー業務、年間とスケジュールを意識した業務運営を実施して、各職員が、課としてのスケジュールに長けた状態を目指す。	デイリー、ウィークリー、マンスリーというくりでオンタイムで処理がそれぞれ行えるように計画を共有して実施できた。 また、コロナ感染がホーム内で発生したときには、ラインワークスでの連絡や情報共有を工夫して実施した。BCPを作成し、その内容に実際の取り組みを反映させて、次の感染事案があった時に役立てることができた。	○
地域社会との連携	【地域社会との連携】 地域自治会組織や社協等の活動への参加、交流を図る	課長、主任	地域との交流の機会が増えた	個々の利用者について、必要な社会資源とのフォーマルな繋がりづくりや取り組みはある程度進めることができた。地域を見渡すと、まだまだ繋がりができそうな社会資源も多くあるので、今後もそうした視点を忘れずに業務に反映させていきたい。	○

〔8〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
5、7、9、11、1、3	自主点検	職員 利用者	各 GH の検査対象（消火器等）を基準と照らして検査した。年間 2 回、業者委託による検査を行った。
10、3	【避難訓練】 大規模災害訓練 （避難・通報・誘導）		各 GH が大規模災害にあった時に、世話人の誘導の元、速やかに避難場所までの移動ができた。過去の出来事を踏まえて、利用者お一人ずつに緊急連絡先カードを作成して、避難訓練時にその携行状況を確認した。
まとめ	年間を通して予定した防災訓練や点検等を実施した。		

〔9〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／	1	居室内で入居者が転倒。原因として、常用服用している精神科 Dr から処方

転落		されている安定剤の処方量をご本人の状態変化に合わせて増えていたため、その副反応として見当識の低下、運動機能低下があったと思われる。けがの程度を見て医療機関受診。主治医との情報共有などを行った。
服薬	1	同じ勤務者が2度続けて、就寝薬の提供を忘れて、飲ませなかった。就寝薬を決まった時間で提供することになっているが、決まった時間にご本人が飲みに来なかったから、という理由で、お薬をリビングテーブルに置いたまま退勤。翌朝の勤務者が気が付いて職員に報告が上がる、ということが2度続いた。勤務者への指導とともにイレギュラーが起きた時にしっかりとフォローができる事故対応を再検討している。
ケガ	0	
利用者トラブル	0	
車両	1	公用車の運転時に、壁に接触。
その他	1	利用者が、単独で外出し、帰路がわからなくなり、歩いているうちに日が暮れて有料道に迷い込んだ。すぐに警察が保護して、通報を受けた。過去にも歩行時に事故に遭うことのあった利用者であったので、遠出の外出の制限や身元カードの携行を支援していたが、夏休みに合わせて、ご自身判断で出かけてしまった。当該の方の気持ちに沿いながら、職員が目配れる時間帯や時期に支援として定期的に外出機会を持つようにした。

■＜重大事故＞ ※県・市町へ報告

7月、12月、1月に生じたコロナ感染の件で、それぞれ報告を行った

〔10〕苦情解決

苦情件数 0件

【相談支援課】 令和4年度 事業報告書一

〔1〕 取り組みと状況報告

- 1 相談支援専門員が4月より3名の配置となったので、機能強化（Ⅱ）の体制届を小田原市に申請をし、基本単価が+302単位上がった。
- 2 主任相談支援専門員の資格取得により、当該月の対応ケース件数に加算を100単位付けられるようになった。
- 3 小田原市に地域生活支援拠点事業の登録を行なった。それに伴い運営規定を変更した。
- 4 コロナウィルスに感染状況を見ながら、モニタリングを訪問や ZOOM で対応をした。ケース会等は出来るだけ訪問をするように対応をした。今後の感染状況にもよるが、感染予防対策を徹底し、訪問を基本として上手にオンラインを活用していく。

5 契約ケース件数

○4月年度開始時	227 ケース	
○支援の終了ケース	15 ケース	介護保険の移行6件、逝去1件、事業所の退所6件、就労のためサービスの利用予定がない2件
○支援の開始ケース	11 ケース	
○1月現在の契約ケース	223 ケース	

令和4年度 地域生活支援相談室 相談支援課 支援対応実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
モニタリング	20	18	17	17	26	34	11	14	14	25	25	42	263
サービスの更新 (計画案・計画)	10	13	14	14	28	16	10	15	10	13	21	4	168
サービスの追加・変更 (計画案・計画)	1	3	1	1	3	1	1	3	2	2	0	1	19
ケース会議	15	13	12	7	9	14	11	11	11	8	15	17	143
家庭・事業所訪問	0	1	5	3	2	0	3	7	7	2	4	1	35
個別面談 (電話対応含む)	12	25	22	28	36	45	40	57	51	55	69	92	532
見学(体験)同行	2	1	2	4	0	3	3	0	1	0	4	2	22
その他支援	5	5	2	4	4	8	6	3	0	0	4	1	42
支援の終了	1	0	2	1	0	2	2	1	2	1	0	3	15
支援の開始	2	0	2	0	3	2	0	1	0	0	1	0	11
支援対応件数	68	79	79	79	111	125	87	112	98	106	143	163	1250

□契約件数:223件 (3/31現在)

〔2〕 令和4年度のまとめ ※各事業所の課題および実施状況

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁護	権利擁護の確立 利用者一人ひとりの思いを正確に形に表し、利用事業所につなげる	課長	正しく分かりやすい書類作り	・『障害者権利条約 国連からの総括所見(勧告)とその影響』～12 条を中心に～法テラス埼玉法律事務所常勤弁護士水島俊彦氏のオンデマンドで配信された講演を視聴し改めて障害のある方の権利について考えた。 ・研修に参加した中で得た ABA(応用行動分析)と OODA の考え方をもとにケース会等の次第をたて、理論立てて課題へ短期集中で一緒に考えていく手法を課の中に取り入れました。繰り返し活用し使いこなすことでタイムリーに課題への対応が出来るようになると思った。	○
人材育成	職員のスキルアップ 相談支援スキルの向上のために、適宜研修会に参加	課長	相談支援スキルの向上	・基本的に課の職員 3 名で同じ研修に参加するようにしている。年間 24 回の研修に参加。 ・オンデマンドで配信された『相談支援の実践力』～魅力ある相談支援事業への期待～日本相談支援専門員協会顧問福岡寿氏の講演を視聴しました。福祉に携わり障害のある人と関わることについての基本姿勢を改めて学習できた。 ・PDCA の考え方に加えて O(観察)O(見立て)D(決定)A(行動)の考え方を取り入れた。	○
業務の検証と改善	業務の検証と改善 タイムリーでスピーディーな対応のための情報の整理とICTの活用	課長	相談や関係機関との調整に多くの時間をさける	・ぼけつとの内部監査から相談でも SKP(Soudan Kaiteki Project)を毎月の課内会議で検討をはじめました。「事務所に窓からの光を多く取り入れたい」と課の事務所のレイアウトを変更した。 ・よるべ沼代のコロナ感染のために仮事務所をさくら館に移動しました。紙ベースの記録は移動させずにPCと少しの備品の移動だけで業務を継続して行えました。ICT を活用して、どこにいても業務が出来る体制にしておいて良かったと感じた。 ・課職員の 4 月～3 月の残業回数 22 回、時間 18.5H(1 人当たり 11 回 9.25 時間)	○
	地域との連携 地域の社会資源の収集と関係機関との連携	課長	サービス調整に必要な情報の収集	・8050 問題やヤングケアラーなど障がい分野だけでなく介護や児童、教育などお一人お一人が抱えている背景の違いに、研修等に参加しての顔つなぎや情報を得ることで、課題への対応やサービス調整等に必要な情報や知識を得ることが出来た。	○

【コスタ・二宮】 令和4年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

① 【就労継続B型＝食品部門】

- ・食品作業を主体とし、商品がすべてオリジナルである為の強みを生かし、利用者の適性を活かし作業提供する。安定した工賃の支給を目指す。

【生活介護＝S P企画】

- ・豊かな社会生活を過ごすために生産活動・学習活動・創作活動等のプログラムを個々のニーズに基づき提供する。「はたらきたい」という方のために、安定した作業の確保を行う。

② 充実した余暇支援の提供をする。

〔2〕 取り組みと状況報告

- ① 今年度は物価の高騰が影響し、製パン班・製麺班は減収、支出が増加となり、収支は減益となった。また社会情勢の影響で、副資材・原材料等の値上げがあり、それに合わせて、7月店舗売りパン・中華麺、10月焼菓子の値上を実施。R5年4月1日付で、施設給食卸値の一斉値上げを計画した。引き続き収入を圧迫しないように支出を抑える努力をした。法人アンテナショップである「ぼいんと・1」が2月に閉店した。支援に関しましては、班別会議の中で支援計画の進捗状況等を確認し合い他班の利用で幅のある支援内容に努めた。
- ② S P企画では感染対策を継続し、安心して活動できるよう配慮したが、発症者の為、12/27・28と1/7～11の計7日間閉所した。生産活動では概ね昨年同様でしたが、11月にハルメク作業が終了した為に減収の大きな要因となった。毎月の料理教室や買い物等外出支援を実施し、個別支援の質の向上を果たしました。
- ③ 余暇支援では開所日を活用し、季節ごとの行事と誕生会を行った。引き続きコロナウィルス蔓延防止を意識し、小グループの活動を基本として実施した。

◆3年間の収支状況

	製パン班(B型事業)	製麺班(B型事業)	SP企画(生活介護)
令和2年度	(収入) 12,123千円 (収支) 1,192千円	(収入) 6,468千円 (収支) 740千円	(収入) 2,428千円 (収支) 224千円
令和3年度	(収入) 12,567千円 (収支) 1,969千円	(収入) 6,964千円 (収支) 466千円	(収入) 2,121千円 (収支) 446千円
令和4年度	(収入) 11,811千円 (収支) 660千円	(収入) 6,520千円 (収支) 370千円	(収入) 2,126千円 (収支) 92千円

■工賃実績（前年対比）令和4年4月～令和5年3月までの一人当たりの月平均			
	令和3年度実績	令和4年度実績	備 考
生活介護 (生産型)	目標(5,500) 4,450	目標(5,000) 4,756	・日本リユース(ハルメク)・小田原市観光協会(提灯組立)・太陽物流(自動車部品)・わたなべ(落花生)
就労継続支援B型	目標(21,000) 22,978	目標(22,800) 21,832	・製麺、製パン作業 ・施設外支援(柳川乳業)

〔3〕次年度に向けて

- ① 「B型事業」では、コロナウィルスが5類指定になり、経済活動の活性化が予想される。イベント参加や売り上げ増に繋がる積極的な活動を行いたい。ぽいんと・1の閉店に伴い、麦畑や移動販売など販売促進につながる努力を行う。また原材料他全体的な値上げの可能性が高い為、情報を基に価格調整や経費節減を行う。
- ② 「生活介護事業」では、個別プログラムや支援を充実させる計画を行う。楽しく働く事を目標とし、健康と機能維持に努め、安定した利用を目指し支援していく。
- ③ コロナ5類により、活動の幅が広がると思われる。皆様の楽しみである余暇支援を積極的に実施する。開所日に外食・外出を含めた楽しみの機会を、4グループに分かれて計画する。

〔4〕利用者状況

【利用者状況】									
■年齢区分（令和5年3月31日現在）									
	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	平均年齢	計
男(B型)		1	2	5	2	2		46	12
女(B型)		3	1	3	2	3	1	44	13
男(生介)	2	3	3	5	0	3	1	41	17
女(生介)				3			4	62	7
最小年齢：19才・最高齢83才									
■障害支援区分（令和5年3月31日現在）									
	非該当	1	2	3	4	5		平均区分	計
男(B型)	3		3	3	3			2.2	12
女(B型)	4		2	5	2			2	13
男(生介)			1	4	9	3		3.8	17
女(生介)			2	2	2	1		3.5	7
■在所年数（令和5年3月31日現在）									
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	
男(B型)			1	1	2	3	1	4	
女(B型)			4	2	4	2	1		
男(生介)		2	5	5	1	1	2	1	
女(生介)			3	2	1	1			
■開所日数および利用者数・利用日数（令和5年3月31日現在）									
【生活介護（生産型）】		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
開所日数		21	20	22	21	21	21		
実人数	男	17	16	16	17	17	18		
延べ利用日数	男	292	289	312	285	287	317		
実人数	女	7	7	7	7	7	7		
延べ利用日数	女	124	122	132	126	123	119		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
開所日数		21	22	19	18	20	23	249	
実人数	男	18	18	18	18	18	17	❖	
延べ利用日数	男	333	348	290	248	297	357	3,655	
実人数	女	7	7	7	7	7	7	❖	
延べ利用日数	女	116	129	105	83	104	129	1,412	

【就労継続支援B型】		4月	5月	6月	7月	8月	9月			
開所日数		21	20	22	21	21	21			
実人数	男	12	12	12	12	12	12			
延べ利用日数		245	236	256	209	213	240			
実人数	女	13	13	13	13	13	13			
延べ利用日数		237	221	248	204	195	217			
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		
開所日数		21	22	21	21	20	23	254		
実人数	男	12	12	12	12	12	12	❖		
延べ利用日数		246	243	200	212	215	232	2,747		
実人数	女	13	13	13	13	13	13	❖		
延べ利用日数		235	232	230	218	215	251	2,703		

〔5〕 短期入所事業 〔6〕 相談支援 ＊いずれも事業の実施無し

〔7〕 令和4年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁護	研修を年間3回実施。利用者対象の権利擁護学習会を年2回開催。虐待防止自己チェックを年2回の実施。	課長 主任	目標回数通り実施できた。学習効果を確認し情報共有できた。	予定通り研修と学習会を実施した。動画を使用しての学習が効果的だった。チェックシートは人事考課面談での確認が有効だった。	○
人材育成	■人材育成と定着に向けた計画に基づき、面談を年2回実施する。■商品や活動の情報発信を行う。	施設長 課長	情報共有ができた。皆で考え課題解決につながった。情報発信の機会を作れた。	人材育成は計画に基づき実施できました。虐待防止・防災・感染症予防・BCPの学習は、eラーニングが有効だった。情報発信が効果的にできなかったのが反省したい。	△
業務検証と改善	【コスト】工賃増を目指し品質維持管理の徹底。売上げ増に繋がる活動を積極的に行う。【SP】個別ニーズ実現の為、プログラムの充実を図る。健康維持・学習・運動ADL向上に向けメニュー化して運用する。	施設長 課長 主任	月次会議で進捗状況確認し、改善する。顧客満足度調査を年1回実施し、顧客へのサービス維持・向上が図れた。	【コスト】コロナと経済状況の悪化に起因する物価高騰で、厳しい現状。売上げを維持しコスト削減に努めましたが困難だった。次年度の課題は多い。 【SP】計画は順調に行えた。高齢化や重度化は継続した課題である。若い方への可能性を伸ばす事を意識した。看護師・PTの巡回は効果的だった。	△
地域社会と連携	利用者が主体となり、地域社会へ積極的に関わる。パラスポーツの継続。地域行事の参加と協同。社会資源となる組織との関係性や繋がりを維持・発展させる。	課長 主任	地域社会との関係性を継続し発展できた。協同の機会を設け連携ができた。	SP企画はパラスポーツへの参加、コスト二宮は子ども食堂との関わりと自立支援協議会への参加が地域社会との連携の大きな成果だと感じている。近隣市町村も含めて社会資源の活用や地域の団体との関わりを増やすことを意識し活動した。	○

〔 8 〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
9/27（火） 13:40	消火・避難・通報訓練	全利用者	火災想定 of 総合訓練を実施
3/23（木） 13:40	避難・通報訓練	全利用者	地震想定 of 避難・通報訓練の実施

〔 9 〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	
ケガ	0	
利用者トラブル	0	
車両	2	・ 駐車中の接触事故。・ 駐車場内での接触事故。
物品破損	0	
その他	4	・ 食品に関する苦情（2 件）。・ コロナ発生（7 月、12～1 月）

《重大事故》 ※県・市町へ報告は特になし。

〔 1 0 〕 苦情解決

苦情件数 0 件

・ 日帰り旅行・富士サファリ（10 月）

・ Xmas 会(12 月)

※ 写真は割愛しています。

・ 開所日 BIOTPIA 散策（2 月）

・ 開所日 創作活動（3 月）

【 梅香園 】 令和4年度事業報告書

〔1〕 運営目標

- ・利用者さんに安心して安全なサービス提供を行う。
(ヒヤリはつとを主に検証と改善策の確認を行う。)
- ・サービス事業の充実を図るため、業務の検証と改善を推進する。
(利用者の適性や特性を考慮した作業内容等を検討し、最善な利用者支援を展開する。)
- ・人材の確保と職員のスキルアップを図る。
(オンライン研修の導入と職員研修の充実を図る。)
- ・地域活動・行動への参加・協力とともに、地域への啓蒙活動を推進し、地域・関係機関との関りを深めていく。
(地域行事に積極的に参加し、は～とふる通信を年2回発行する。)

〔2〕 取り組みと状況報告

- ・新型コロナウイルスの感染防止対策を行うとともに、ガイドラインの作成など対策を講じてきたが、8月と10月に利用者及び職員が陽性となりクラスターになってしまい、園では休園対応し、ホームはロックダウンした。
リスクマネジメント委員会にて虐待防止の視点も入れてチェックリストにて自己点検を行い協議した。
- ・主任会議の場で業務の検証を行い、改善を図ってきたが、まだまだ十分とは言えない状況にあり、園とホームとの連携会議は調整不足で実施出来ていない。
「誕生日で食べたいケーキ作り」や大切な言葉を引き出して支援に取り組んできた。全体旅行がコロナ感染の為に中止したことは残念であった。
- ・外部研修にはコロナ禍でもあり参加することが出来なかったが、強度行動障害の方の日中支援の様子を見学することが出来た。しかし、オンラインによる研修は単発のみで継続的に取り組むまでには至っていない。
PTによる機能訓練が始まったことで、園内での機能訓練（生活リハ）について深めることが出来た。
- ・コロナ禍のため、今年度も残念ながら地域の行事は中止となったため参加できなかった。は～とふる通信については、遅れたが年度内に春号を発行することが出来た。

〔3〕 次年度に向けて

- ・コロナの感染対策の状況を踏まえながら、ガイドラインを見直すなど対策を講じていく。個別支援の時間を作り利用者支援の充実を図っていく。
- ・業務改善において、継続して行うこと、今後やるべきこと、課題などを見つけることが出来たと感じているので、実現できるように取組んでいきます。
- ・自己研鑽できるようオンライン研修を含めて、様々な研修に参画できる環境整備を進めていく。
- ・地域行事へは協力するとともに、は一とふる通信を定期的発行出来るように、委員会の活動を活性化していく。

〔４〕利用者状況

■年齢区分（令和５年３月３１日現在）

	～20 歳	20 歳	30 歳	40 歳	50 歳	60 歳	70 歳～	平均年齢	計
男	2	3	4	5	9	3	2	46.2	28
女	1	3	6	6	5	1	1	43.2	23
計	3	6	10	11	14	4	3	44.8	51

最年少：18 歳・最高齢：88 歳

■障害支援区分（令和５年３月３１日現在）

	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男	3	2	3	1	12	3	4	3.5	28
女	2	—	1	5	7	3	5	3.9	23
計	5	2	4	6	19	6	9	3.7	51

■在所年数（令和５年３月３１日現在）

	6 ヶ月未満	6 ヶ月～1 年未満	1 年～3 年未満	3 年～5 年未満	5 年～10 年未満	10 年～15 年未満	15 年～20 年未満	20 年以上
男	1	1	4	1	—	10	11	
女	—	1	—	1	7	5	9	
計	1	2	4	2	7	15	20	

■開所日数及び利用者数・利用日数（令和５年３月３１日現在）

【生活介護（生産型）】		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
開所日数		21	20	23	22	21	21	21	19	21	21	20	23	253
実人数	男	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132
延利用日数		219	218	247	232	171	223	184	170	224	227	214	249	2, 578
実人数	女	13	13	13	13	14	14	14	13	14	14	14	14	163

延利用日数		225	219	246	238	188	230	208	190	252	246	230	270	2, 742
【就労継続 B 型】		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
開所日数		21	20	23	22	21	21	21	19	21	21	20	23	253
実人数	男	17	17	17	16	16	16	15	16	15	15	15	15	190
延利用日数		326	311	340	300	237	280	302	244	303	288	283	338	3, 552
実人数	女	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	122
延利用日数		196	187	206	200	135	157	182	121	158	166	150	186	2, 044

■工賃実績（前年対比）

	令和3年度実績	令和4年度実績	備 考
生活介護 (生産型)	目標 3,000 円 3,446 円	目標 3,000 円 4,656 円	収入：1,481,384 円 支出：1,349,584 円（工賃： 1,209,900 円） アルミ缶つぶし・自主製品作成 北原清掃・高架下除草
就労継続支援 B 型	目標 20,000 円 21,311 円	目標 20,000 円 21,442 円	収入：13,082,027 円 支出：9,630,028 円（工賃：5,620,000 円） 施設外就労：ひかりの里・足柄療護園 清掃・ラールス/印刷・受注作業等

〔5〕日中一時事業

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
開所日数		21	20	23	22	21	21	21	19	21	21	20	23	253
実人数	男	5	6	3	5	5	5	4	4	6	5	4	6	58
延利用日数		46	43	25	70	27	42	36	23	46	47	43	50	498
実人数	女	1	1	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1	10
延利用日数		1	1	0	2	1	1	1	0	1	1	1	1	11

〔6〕令和4年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁	【権利擁護の 確立】 ・虐待防止委	施設長 リスク	虐待防止委員会 を設置し、虐待 の定義を理解	虐待防止委員会の中で良い支援が出 来る様、改めて自分たちの行動を考 えている。日常的に当たり前になっ	△

護	員会を設置し、虐待の定義を理解する。 ・虐待防止マネージャーの配置	委員会	し、虐待防止マネージャー研修を受け配置出来た	ていることが、虐待につながる可能性がある事等自分たちの行動を振り返るのに良い活動となった。自己チェック表を使い自分たちの行動を振り返ることは、自分たちの行っている支援が適切かどうか考える良い機会となったので、次年度以降も継続して行える方法を考えていく。	
業務の検証	【業務の検証と改善】 ・委員による検討 ・業務マニュアル・労働環境・防災等の業務の見直し等	主任会 全職員	・利用者の特性や希望に応じた支援が展開出来た ・見直すことで必要な課題を抽出出来たか	体制を変えることで、今まで当たり前になっていたことを再度見直し、それぞれの事業所で取り組むべきものをしっかり考えることが出来た。この1年は試行的に行ってきたこともあり、継続して行う事、今後やるべきこと、課題など見つけることができ次年度につなげることが出来た。	○
人材確保と育成	(人材確保と育成) ・梅香園の活動を理解して、働きたいと思える職場づくり	施設長 課長 主任会	園の活動が理解できるパンフレットを作成することで、人材育成、職員の専門性が向上し日々の支援に活用出来た	外部研修、スペシャルラーニングを利用しての研修など、積極的な研修への参加ができなかった。現状の仕事に追われてしまい余裕がなかったこと、やりたい気持ちを引き出す仕組みがなかったことなど多くの課題を残した。	△
地域社会	【地域社会との連携】 ・地域と連携した行事運営 ・「は一とふる通信」の発行	広報委員会 全職員	・地域の方と一緒にあった行事の運営等 ・は一とふる通信の発行	年間を通してコロナ禍で行事の中止もあり、行事を通しての地域の方との連携は行えなかったが、コロナの落ち着いた状況で、誕生会に演者さんを招いたり、ボランティアさんの受け入れ等出来る限りの連携は出来ている。は一とふる通信は、昨年度の反省を踏まえ、今年度は計画的に行い年度内の発行を目指す。	○

〔7〕 防災……………年3回、水害想定、地震想定、火災想定避難訓練を実施

〔 8 〕 リスクマネジメント（事故報告） 合計 118 件（内 GH は 29 件）

種類	回数（GH）		内容等
転倒・転落	16	7	ルームランナーの操作ミス、駐輪場での転倒、車イスから立って転倒
服薬	15	9	利用者違い、飲ませ忘れ、落薬、セッティングミス、変更連絡ミス
けが	1	1	突然頭突きをされてしまう
利用者トラブル	1	0	泣いている利用者を叩いてしまう
車輛(送迎含む)	13	0	物損事故、ドア開けたまま走行、送迎車への乗せ忘れ
物品破損	0	0	—
その他	72	12	配布書類の入れ間違い、食数の発注漏れ、通院の連絡ミス

《重大事故》事故報告はなし。コロナウィルス感染の際には、県と小田原市に報告している。

〔 9 〕 苦情解決… 苦情件数 0 件

< 新年会 & 祝新成人 >

< 感謝祭の一コマ >

< 誕生会での作品（大切な言葉） >

※ 写真は割愛しています。

【 あずさの家 】 令和4年度事業報告書

〔1〕 運営目標

- ・利用者さんに安心して安全なサービス提供を行う。
(ヒヤリはつとを主に検証と改善策の確認を行う。)
- ・事業の充実を図るため、業務の検証と改善を推進する。
(利用者の適性や特性を考慮した作業内容等を検討し、最善な利用者支援を展開する。)
- ・人材の確保と職員のスキルアップを図る。
(オンライン研修の導入と職員研修の充実を図る。)
- ・地域活動・行動への参加・協力とともに、地域への啓蒙活動を推進し、地域・関係機関との関りを深めていく。
(地域行事に積極的に参加し、「は～とふる通信」を年2回発行する。)

〔2〕 取り組みと状況報告

- ・新型コロナウイルスの感染防止対策を行ってきたが、8月と10月に利用者及び職員が陽性になってしまい、2つのホームをロックダウンした。
- ・ホーム会議の場で、潤いのある生活づくりを中心に協議及び検証を行い、少しずつですが改善することが出来た。さらに充実出来るように進めていく。
- ・ホームでの生活支援をテーマに取り組んでおり、後期にはPTによるホームでの機能訓練(生活リハ)の研修を実施することが出来た。しかし、オンライン研修については進めることが出来なかった。
- ・コロナ禍のため、今年度も残念ながら地域の行事は中止となったため参加できなかった。は～とふる通信については、園の委員会に参画して春号を発行することが出来た。

〔3〕 次年度に向けて

- ・コロナの感染対策の状況を踏まえながら、対策を講じていく。また、「気づき」を大切にして、「ひやりはつと」にあげていき、安心安全なサービス提供に取り組んでいく。また、防災訓練が不十分であったので、計画的に実施していきます。
- ・居住者が安心して住みやすく、潤いのある生活となるように、ホーム会及び各ホームのミーティングを中心に協議して支援していく。

- ・自己研鑽できるようオンライン研修を含めて、様々な研修に参画できる環境整備を進めていく。
- ・地域行事へ参加していくとともに、定期的に「はーとふる通信」が発行出来るように、委員会の活動に参画する。

〔４〕利用者状況

<事業所名>	<グループホーム名>	<定員>	<現員>
あずさの家（定員２１名）	あずさの家（女性専用）	７名	７名
	ポプラの家（男性専用）	７名	６名
	※短期入所事業（空床型１名）		
	わたくも（アパート型）	７名	５名（計１８名）

【利用者状況】

■年齢区分（令和５年３月３１日現在）

	～20歳	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	平均年齢	計
男	1	1	—	1	3	3	2	53.7	11
女	—	—	2	—	4	—	1	52.9	7
計	1	1	2	1	7	3	3	53.4	18

最年少：18歳 ・ 最高齢：88歳

■障害支援区分（令和５年３月３１日現在）

	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男	—	—	2	3	4	1	1	3.6	11
女	—	—	—	3	1	2	1	4.1	7
計	0	0	2	6	5	3	2	3.7	18

■在所年数（令和５年３月３１日現在）

	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	計
男	1	—	1	5	4	—	—	11
女	—	—	—	1	6	—	—	7
計	1	—	1	6	10	—	—	8

■開所日数及び利用者数・利用日数（令和５年３月３１日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	男	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	11	126
延利用日数		294	287	289	295	284	295	285	279	280	270	304	3,430
実人数	女	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84

延利用日数		208	212	205	212	214	209	215	194	195	216	194	213	2,487
-------	--	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

〔５〕 短期入所事業

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
実人数	6	6	6	6	5	5	4	5	8	9	6	9	75
延人数	8	8	8	8	6	7	6	6	12	11	8	11	99
延日数	16	21	23	23	15	18	9	11	20	19	14	17	206

〔６〕 令和４年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

※梅香園の令和４年度まとめに準じる

〔７〕 防災…3/12 地震想定避難訓練を実施しましたが、火災・水害想定避難訓練は未実施

〔８〕 リスクマネジメント（事故報告）※梅香園のリスクマネジメントに準じる。コロナウィルス感染の為、県及び小田原市に報告しています。

〔９〕 苦情解決…苦情件数 0 件

<ポプラ：めんたい外出> <あずさ：ツデーマーチ> <わたくも：箱根ドライブ>

※ 写真は割愛しています。

【わらべの杜】 令和4年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

社会的養護を必要とされている児童に対し、安心・安全な“暮らし”を提供する。入退所における空床がないよう事前の調整等を図り、通年通して安定した運営となることを目指す。また、円滑な地域移行となるよう早期の移行調整を図り、児童にとって最適な暮らしの場へつなげていくようにすすめる。

児童の権利擁護に関しては、児童虐待の防止と職員の意識向上に今後も引き続き努める。

〔2〕 取り組みと状況報告

○ 地域移行と自立支援

高校3年生3名と過齢児1名の地域移行に向けたコロナ禍での活動となった。

施設入所支援を希望する方の体験も思うように進まない中、職員も一生懸命に取り組み、対象となる4名のうち1名は法人内のグループホームに入居、安心して中で送り出しをすることができた。また、1名は短期入所を繰り返し実施しながら無事に移行、過齢児1名については全介助ということや空き状況もない中で移行が困難だったが、無事に3月に移行先が決定。残る1名は現在体験を行いながら移行先を検討している。

言葉のない児童も意思はあることを踏まえ、本人の様子やしぐさなど、様子を観ることで本人の気持ちを察知するように心がけている。また、新高校3年生となる9名についても、すでに数名は見学等を実施し地域移行に向けた取り組みを開始。

短期入所はコロナの影響のため中止、一時保護は状況を見ながら受け入れをしてきた。コロナを持ち込まないために、検査の徹底と感染予防対策をとりながら児童の外泊等もできており、児童の外出制限も感染拡大状況を見ながら緩和してきた。

○ 権利擁護と虐待防止への取り組み

職員にはオンラインでの研修への参加も実施し、会議では事例を中心に意見交換、他施設で発生した虐待事案についても同様に意見交換し、それぞれが“考える”“振り返る”時間を少しでもとることで、自身の発言や行動について見直す機会が得られた。

○ 地域活動への参加

地域の中で施設として何ができるか？を模索し、橘北「まちづくり委員会」文化・教育分科会委員として会議に出席し、地域の子ども向け行事等へ積極的に参加、わらべの杜児童も草木染等のイベントにも参加することができた。

〔3〕 次年度に向けて

with コロナとして、感染防止対策は継続しながら児童の健康管理に配慮し、安心・安全な環境作りをさらにすすめるために何をすべきか考えていく。

○児童の楽しみ作り：地域のマラソン大会など、スポーツを通して体を動かすことの楽しさを見つけられるよう向けていく。

○職員の働きやすい環境作り：労働環境の見直し・改善

○職員研修の実施：対面・集合研修へも積極的に参加し、人材育成に努める。

○地域社会との交流：地域の一つの拠点としてできることを積極的に考え動いていきます。

〔4〕利用者状況

■年齢区分（令和5年3月1日現在）								
	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18～19歳	20歳～	平均年齢	計
男	0	5	6	13	5	0	14.6	29
女	0	3	1	4	3	0	14.5	11
措置	0	7	7	15	7	0	14.5	36
契約	0	1	0	2	1	0	15.0	4
最小年齢：8才・最高年齢18才								
■在所年数（令和5年3月1日現在）								
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年以上
男	5	0	3	1	3	16	0	0
女	1	0	0	3	0	7	0	0
■開所日数および利用者数・利用日数（令和5年3月1日現在）								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数		30	31	30	31	31	31	
実人数	男	28	29	29	29	28	28	
延べ利用日数		840	899	870	899	868	868	
実人数	女	8	8	8	8	8	8	
延べ利用日数		240	248	240	248	248	248	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		31	30	31	31	28	31	366
実人数	男	28	28	29	29	29	29	343
延べ利用日数		868	830	899	899	812	899	10451
実人数	女	8	8	8	8	8	8	96
延べ利用日数		248	240	248	248	224	248	2928
■療育手帳程度別在所者数（令和5年3月1日現在）								
	最重度	重度	中度	軽度				
					手帳無し			
男	2	3	4	17	0			
女	1	1	0	5	0			
■令和4年度新規入所児年齢（令和5年3月31日）								
	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	計			
男	0	2	2	1	5			
女	0	0	0	0	0			
措置	0	2	2	1	5			
契約	0	0	0	0	0			
■令和4年度退所児者の状況①（令和5年3月31日）								
	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18歳以上	計		
男	0	0	1	0	2	3		
女	0	0	0	0	1	1		
措置	0	0	0	0	3	3		
契約	0	0	1	0	0	1		
■令和4年度退所児者の状況②（令和5年3月31日）								
	障害者支援施設	グループホーム	在宅	他				
男	1	1	1	0				
女	1	0	0	0				
措置	2	1	0	0				
契約	0	0	1	0				

〔5〕 短期入所事業及び一時保護

■ 短期入所														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延べ利用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
■ 一時保護														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
実人数	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	
延べ人数	1	1	0	0	0	1	1	3	1	0	3	2	13	
延べ利用日数	23	4	0	0	0	9	7	37	8	0	8	14	110	

〔6〕 令和4年度まとめ

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
権利擁護	(1寮) 子どもの意見表明を中心とした生活を創出する。	1寮職員	子ども会議を主軸に、特性に応じた意見表明の場を通年で継続していく。さらに、生活の中で体験する機会を設け、振り返りや評価等の意見(表明)交換を実施していく。	定期的な子ども会議を実施。ユニットルール等を子どもたちの意見中心にまとめた。性に関する内容では、児童相談所を含めた意見交換の機会を設けた。	○
	(2寮) 人権擁護のためのセルフチェックリストを作成し自身の関りを見つめると共に、子どもたちの安心感もアンケートにて確認していく。	2寮職員	職員が自身の関わり方を客観的に見つめ、適切な関りが出来ているか振り返ると共に、児童が安心・安全な生活を送れていると感じる事ができる。	幾度となく試行錯誤を重ね、セルフチェックリストを作成し職員に行った。新年度は職員→子ども→職員→子どもと定期実施を目指す。	○
	(3寮) 年齢や特性に適した方法を基本に、子どもたちが、自ら題材を見つけて発信できるような子ども会議を行う。	3寮職員	子どもたちが、子ども会議で盛んな意見交換ができ、会議の内容が日常に活かされている。	ワークシートを使用したり子どもの興味をひけるような題目を用意したりと意欲的な子ども会議を目指したが、盛んな意見交換までは至らず。一方で、子どもの意見から脱衣所やタオルの使い方を改善することができた。	△
人材確保・育成	様々な状況を見定め、研修等に参加していく。	全職員	研修等に参加し、児童、生徒の支援の質が向上する。	下半期は研修への参加が難しかったが、今年度は強度行動障害基礎研修への参加、意思決定ガイドライン研修など、必要な研修には参加することができた。	○
業務の改善と検証	(1寮) 支援環境の美化を目指す。 (2寮) 経年劣化個所とその改善方法の検討。 (3寮) 生活環境を整える。	全職員	(1寮) 10年目を迎え、各所で汚れや破損等が目立つ。美化すべきポイントの把握と改善を目指す。 (2寮) 劣化個所がきれいになり、気持ち良い生活が送れる。 (3寮) 破損している備品・家具等の修理や買い替えを進め、生活しやすい環境を作る。	(1寮) 寮内環境をチェックし重点ポイントを把握。特にのぞみユニットのカビ汚れが顕著だったため清掃を実施。 (2寮) 応急処置を施す程度で劣化箇所の改善には至っていない。 (3寮) 汚れのひどかった天井を清掃。各居室のカーテン、破損していたタンスの買い替えを実施。	△
地域社会との連携	様々な状況を見定め、地域行事の参加をしている。	全職員	地域行事に参加できたか。	地域の「まちづくり委員会」を中心に、地域行事の「草木染め」「みんなde風揚げ」「ダンスイベント」の開催もできた。草木染めにはわらべの杜児童も参加することができた。	○

〔7〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
4・6・9・10・11・ 12・1・2・3	避難・通報・消火	全利用者	地震訓練の際の避難前の行動や、職員の放送をしっかりと聞くといった発生時に必要とされる行動がとれるようになってきている。
5・7・8	【夜間】 避難・通報・消火		

〔8〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	
服薬	0	
ケガ	0	
利用者トラブル	0	
車両	0	
物品破損	0	
その他	0	

《重大事故》 ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策
12月24日 ～ 1月16日	コロナ ウィル ス感染	12月24日から 続けて4名の児 童の感染、その 後職員の2名の 感染も発生。	感染の発生したユ ニットをレッドゾ ーンとし、特定の 職員のみ出入りす ることとした。	感染経路は学校での感染とい うこともあり予防は困難だ が、継続的に体調の様子に変 化が見られた場合には検査を 実施し、早めの通院を行う。
3月	転倒	マイクロバス下 車時、ステップ を踏み外し転倒	小田原市立病院へ 通院し処置。児童 相談所、保護者へ 連絡し謝罪。	階段、ステップへの乗降の際 には下側に職員がつくことを 徹底。

〔9〕 苦情解決 件数 0件

※ 写真は割愛しています。

【どーむ（童夢）】 令和4年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

安定した事業運営を目指し、活動を通して広く周知する。

また、療育を必要とされている児童に対し、可能な限りサービス提供できるよう関係機関との調整を図り、児童に丁寧かつ慎重に支援し、保護者への支援も実施しながら、児童の健やかな成長をサポートする。

〔2〕 取り組みと状況報告

関係機関との連携を強化することを目指し、虐待関連ばかりでなく、就学に向けた教育機関との連絡も多くとり、19名の年長児への療育への取り組みを伝えていくようにしてきた。また、保育園にうまく馴染めず登園渋りが見られたり、場面緘黙のお子さんなど、本人の困り感がどこにあるのか探りながら、どーむを“安心できる場所”として情緒の安定になることを目指し取り組んだ。お子さんの情緒の安定＝保護者の安定にも影響することを踏まえ、保護者の方の困り感にも寄り添う支援を心掛けた。

落ち着かず室内を走り回るお子さんもいたりする中で、個別対応もとりながら徐々に落ち着き着席できるようになり、一人ひとりがととても成長の感じることができた一年であった。

発達障害傾向のあるお子さんは得意なことも多く、自己肯定感の向上も目指し、得意を伸ばす取り組みを行った。就学後、本人の自信につながり力を発揮できるようになっていただきたいと願っている。

権利擁護については、非常勤含めた研修の実施、その後の意見交換も行うことで、職員の権利擁護への意識向上を図り、日々の支援での振り返りができるよう向けてきた。

最後に、日々お子さんや保護者の方々とのコミュニケーションにより、職員も学ばせていただいていることに心より感謝申し上げます。

〔3〕 次年度に向けて

昨今の児童虐待事案を受け、事件・事故のないよう権利擁護について研修や虐待防止委員会や身体拘束適正化委員会を活用し意識向上に努める。

職員の労働環境の整備も意識し、働きやすい環境作りを心掛けていく。

発達支援では、アセスメント力をつけていくことを目指し、本人の行動特性の理解をすすめることや研修等で得た知識を生かし、支援方法の幅を広げていきたい。

〔4〕利用者状況

■年齢区分（令和5年3月31日現在）								
	3歳未満	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児以上	平均年齢	計	
男	0	0	2	4	13	5.6	19	
女	0	0	1	3	6	5.5	10	
最年少：4才								
■在所年数（令和5年3月31日現在）								
	3ヶ月未満	3ヶ月～6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～2年未満	2年以上			
男	0	1	6	6	6			
女	0	1	2	3	4			
■開所日数および利用者数・利用日数（令和5年3月31日現在）								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
開所日数		21	18	22	22	20	21	124
実人数	男	14	17	18	18	18	18	103
延べ利用日数		53	47	74	67	48	68	357
実人数	女	8	9	9	9	9	9	53
延べ利用日数		33	32	43	29	31	42	210
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		22	19	20	20	19	21	121
実人数	男	18	18	18	19	19	19	111
延べ利用日数		62	69	61	69	64	53	378
実人数	女	10	10	10	10	10	10	60
延べ利用日数		34	44	42	41	34	38	233
■住所地（令和5年3月31日現在）								
	小田原市	中井町	大井町	松田町	開成町	二宮町	伊勢原市	
男	17	1	0	0	0	0	1	
女	8	1	1	0	0	0	0	
■入退所状況（令和5年3月31日現在）								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
入所	男	3	1	1	0	0	0	2
	女	1	0	0	0	0	0	0
退所	男	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	男	0	0	1	0	0	0	1
	女	1	0	0	0	0	0	0
退所	男	0	0	0	0	0	14	14
	女	0	0	0	0	0	6	6
■利用の経緯（令和5年3月31日現在）								
	発達相談	市町子育て	健康づくり課	つくしんぼ教室	他			
男	9	2	4	1	3			
女	5	1	2	1	1			
計	14	3	6	2	4			

〔5〕令和4年度まとめ

項目	具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
人材育成	権利擁護に係る研修への参加、その他必要な研修をすすめる、療育だけにとらわれない内容を含めて推進する。また研修報告をどーむ会議や療育支援会議にて報告し、伝達していく。	全職員	権利擁護研修や感染症対策研修など、必要な研修を全職員が受講し、会議等で共有する。	小田原市早期発達支援講習会（全4階）への参加、どーむ研修としてやまゆりの日に合わせた権利擁護研修に非常勤職員含めて参加。研修後のアンケートにより振り返りを行うこともできた。	○
地域社会との連携	行政機関、小学校や幼稚園・保育園含めた関係機関との連携を深める。	全職員	行政機関との報告・連絡を丁寧に行い、併行通園先との連携も継続しながら、新たな訪問先との関係も深める。小学校へは卒園児のフォローアップとしての訪問を実施。	新たな併行通園先への訪問も実施し、連携を深めてきた。また、卒園後の心配が大きかった児童の小学校へのフォローアップ訪問も1校だけではあつたが実施することもできた。	○

〔6〕 防災

実施	実施内容	対象	振り返り
毎月 1 回	避難・通報・消火	全利用者	一人 1 回は体験できるよう曜日を変えて実施。緊張感を持つことは難しい状況。

〔7〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	
服薬	0	
ケガ	1	砂場遊び用玩具の破損により切り傷
利用者トラブル	0	
車両	2	スピードメーターや警告灯の異常点灯が発生／工事中道路を走行の際に、警備員の誤指示による車両の軽微な接触
物品破損	0	
その他	0	

《重大事故》 ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策

〔8〕 苦情解決

件数 0 件

※ 写真は割愛しています。

《着席課題》

《室内遊び》

《滑り台》

【ぽけっと】令和4年度 事業報告書

〔1〕運営目標

障害者就業・生活支援センターとして、「就職や職場適応などの就業面の支援や、生活習慣の形成や日常生活の管理など生活支援が必要な障害者に対して、就業に伴う日常生活、社会生活上の支援を行い、身近な地域で就業面及び生活面で一体的かつ総合的な支援を提供し、職業生活における自立を図る」を目的とした事業運営を基本に、職員のスキルや経験を活かしたライン制を構築し、より効果的な支援提供を目指した。また、これまで取り組んできた虐待防止体制（権利擁護）を維持しながら、より良い相談支援の場として取り組めるように、登録者と同じ風景を観ながら各自の相談スキル・コーディネート力の向上を図ることを運営目標とした。

〔2〕年間のまとめ

障害者支援センター「ぽけっと」は「障害者就業・生活支援センター事業」において、県西障害保健福祉圏域を中心に、障害種別を問わず障害のある人の就業に関する相談や支援および生活支援を実施した。

＜今年度の目標と実績＞

項目	就職件数	実習件数	就職率	定着率（1年）
目標	45 件	33 件	60.0%	80.0%
実績	54 件	47 件	77.1%	80.4%

今年度も就職者数等の数値目標を掲げ、実績は全て目標値を上回った。

昨年度、コロナ禍で実習あっせん数が伸びなかった為、今年度は積極的に実習の推進を図り、開拓、あっせんを行い、定期的な職場訪問や、相談により定着促進を図った。また、地域における重要な役割として、ネットワークの構築による、支援力の底上げ、他支援機関との相談・支援を重点項目とし取り組んだ。具体的には ①圏域職業安定所との連携強化（チーム支援会議等の発足） ②中小企業家同友会への参加（ダイバーシティ委員会の役員等） ③県西圏域（足柄上下郡）自立支援協議会での連携強化（行政・事業所との横の繋がり）である。

事業主支援としては、企業交流会を4回実施した。「合理的配慮」を通年のテーマとして毎回20社程参加があり、雇用の幅が広がるなど好評を頂いた。

行政・関係機関とのネットワーク構築としては、自立支援協議会就労支援部会の活動として、足柄上地区・下地区での打ち合わせ、部会を合計15回実施、優先調達・共同受注について県や事業所の取組み、障害者雇用の変化（制度面・超短時間雇用）について情報発信および連携を図った。

登録者向けには、職場定着・就労促進の為、対面でのピア活動は3回行い、ピア活動がな

い月は、フリースペースとして開催をした。面接会向けセミナーの開催および個別での模擬面接会も対面で行い、求職者同士の交流で意欲の向上が見られた。また、勉強会では「セルフケアスキルの向上」をテーマに①「いきいきステップ～自分の強さって何だろう～」②「身体と心の休め方」の2回を実施。オンラインと対面のハイブリッド形も試みた。対面が苦手な当事者でも参加しやすい環境を整えた。

地域資源の開拓として、新規サービス事業所へ求職ライン職員でセンターの周知も含め訪問し連携を図った。株式会社の参入が近年多く、今後もネットワークの強化及び情報収集は継続していく。

人材育成では、かながわエースを招いての発達障害のケース検討や、精神保健福祉士を持つ職員が精神疾患の知識・対応・及び認知行動療法についての所内研修を定期的の実施し、実践に取り入れている。

〔3〕次年度に向けて

より円滑でスピーディな支援提供のため、所内連携（内部コミュニケーション）の再徹底を図る。実績目標は今年度同水準とし、数値のみでなく、質として事業主及び当事者が満足できる結果となるよう、職員の資質向上を目指す。関係機関及び行政との関係性構築を進め、地域の就労支援力強化、福祉サービスから地域での就労へ向けた地盤づくりや、雇用環境の改善に努める。また、再来年度より障害者雇用率が上がり、制度面も変わる事で企業の障害者雇用が活発になると想定される。その為、より企業への理解と配慮を求める為に、伝える力（知識・説明力・相手のニーズをつかむ力）を高め、コーディネート力の向上を目指す。

登録者交流・行事についても、対面及び障害種別を問わないセミナー等、広く参加できる企画を検討していく。

〔4〕登録者状況

■開所日数および延べ相談支援件数(令和5年3月31日現在)							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数	23日	22日	25日	23日	25日	23日	
相談支援件数	470件	502件	566件	508件	520件	523件	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談支援件数	23日	23日	23日	22日	21日	24日	277日
合計	574件	513件	518件	518件	440件	549件	6201件

■市町村別相談支援件数					
小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町	南足柄市	中井町
3699	263	117	136	552	122
大井町	松田町	山北町	開成町	その他	合計(件)
151	180	279	195	507	6201

■就業支援年間実績(令和5年3月31日)				
新規登録者数	職場実習幹旋数	就職者数	1年以上離職者数	1年以内離職者数
98(54)	47(25)	54(23)	21 (8)	10 (6)

※ () は精神障害者の数を表す

〔5〕 令和4年度事業報告 ※各事業所の課題および実施状況

【項目】 具体的活動	実施者	到達点	実施状況	評価
【権利擁護】 権利擁護について、日常的に話し合える土壌を作る。チェックリストを通して効果測定を定期的に実施し、権利擁護できる力の向上を意識する。	所長 課長	権利擁護について日常的に話し合える土壌を作る	定期チェックの実施および定例での話し合い、意識の向上を図った。会議で虐待事例・動画の視聴を実施した。権利擁護の観点からは働く障害者及び、雇用主自身の権利擁護も知識を継続的に得ていく必要性があり、次年度以降、制度や労働契約、ハラスメントへの情報収集も課題。	○
【人材育成】 - 支援内容を共有し、チーム連携する為の記録整理・定着。 - ケース検討を定期的に実施し、多角的な視点を学び、チーム力を高め、支援の向上につなげる。	全職員	- 見やすい記録で機を逸せず支援へ繋る仕組作り。 - 困難ケース共有を定期的に行い、視点を共有する	記録：定例確認、意見交換を実施、ライン間で使用する共有シートの定着や、新規作成を行い、ライン間のスムーズな連携につながった。(企業アセスメントシート・ジョブマッチシート) ケース検討は定期的に実施、事前に所内で打合せの上、実施した。	○
【業務の検証と改善】 - PKP (ぽけっと改善プロジェクト) による、定期的な就業環境改善などの活動 - ムリ、ムダ、ムラをなくすための業務の見える化への取り組み	PKP 担当職員	- 昨年度同様に PKP を組織化、担当意見を反映。 - 個々人の業務を定期的に進捗できる仕組の実践。	業務の効率化を図るための ICT を推進。携帯やタブレットを業務に活用したが、一部に留まっている。環境改善は、職員からの意見をもとに細やかな実施ができた。定例チェックを導入したことで、意識はするようになったが、実施の徹底については今後も声掛けは必要と感じる。	○
【地域社会との連携】 - 地域資源との連携を目的とした訪問・ネットワークづくり - ピア活動の発信。	担当職員	- 地域資源と連携できる関係づくり。 - 活動の拡充・発信で地域への障害者の認知を高める。	曾我病院デイケア訪問、説明や意見交換、ケース会等での連携が活発になった。新規事業所等の見学、連携しての支援につながった。月2回以上のブログ投稿で地域に向け発信ができた。小田原市主催の地域交流事業に協力し、精神障害関連団体への発信と連携ができた。	○

〔6〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	—
服薬	0	—
ケガ	0	—
利用者トラブル	0	—
車両	0	—
物品破損	0	—
その他	0	—

《重大事故》 ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策
0 件	—	—	—	—

〔7〕 苦情解決

苦情件数 0 件

※ 写真は割愛しています。

企業交流会（ZOOM）

身だしなみセミナー

勉強会（ストレス回避について）